



株式会社シクリズムジャパン代表取締役  
サイクルロードレースチーム エキップアサダ監督

## 浅田 顕

### PROFILE

あさだあきら。東京都出身。1967年生まれ。  
 (株)シクリズムジャパン代表取締役 兼 サイクルロードレースチーム エキップアサダ監督兼代表。  
 高校卒業後、実業団選手として活躍。その後渡仏し、欧州のプロチームで活躍。  
 現役引退後、2007年にエキップアサダを設立。ツール・ド・フランスで活躍する新城幸也選手をはじめ数多くの有力選手を育てるなど、日本の自転車ロードレース界を代表する監督として知られている。  
 益田市東京オリンピック・パラリンピック自転車競技キャンプ誘致アドバイザーとしてアイルランドナショナルチームの事前キャンプ決定に導いた立役者。



### ■アイルランドが 益田市を選んだこと

東京オリンピック・パラリンピックにおいてアイルランド自転車競技チームが事前合宿地として益田市を選んだ理由は複数あると思います。まずは私が欧州での国際大会参加を通じ知り合い、交友があったアイルランド代表監督のニール・マーティンさんの存在。彼は自身の実績を鼻にかけないとても気さくな人柄で、提案に対しとても興味を持っていただき、まずは視察を兼ねての来訪合宿を実現してくれました。そこで受け入れてくれた益田の人々の温かさに触れ、まさに「LO・MO・TE・NA・SHI」を感じてくれたことが一つ大きな要因だと感じています。

私も世界を転戦する中、大会関係者以外の地元市民が我々の存在をどう感じているのか？という事にとっても敏感になります。実はニール・マーティンさんもアイルランド人ではなく、スペインに住むイギリス人。彼もその部分は敏感です。

海外の人々にとって、日本の都市部の人口密度や交通事情等のニュースはよく目にしており、ビジネスで来日を経験した自転車仲間からも、「日本のサイクリストはどこで練習しているんだ？」とよく聞かれます。そんな中、私が太鼓判を押す益田市のサイクリストへの快適さは世界にも通用したようです。実際にアイルランドの選手たちに

走行してもらい、安全なトレーニングを実現できる広範囲での道路整備状態や自然環境の良さが選手たちにも「もう少し走ってみたい」と感じてもらえました。この点も一つ大きな要因です。

益田市は東京オリンピック・パラリンピック会場からとても離れています。日本地図上で見ると本会場との位置関係ですでに選択肢に入らない可能性がありました。飛行機移動が日常となっているトップアスリート達にとって、それ程大きな問題にはなりません。私も遠征をされていて、移動のストレスはむしろ空港までの交通事情や飛行機を降りてからのスムーズさが重要で、アイルランドチームも萩・石見空港から益田市へのアクセスのスムーズさを気に入ってくれたと思います。これらの条件を総合評価しアイルランドは益田市を選びました。私も益田市の良さを世界の人に評価されたことをとても嬉しく思っています。そしてアイルランドを受け入れてくださった益田の皆さまへ深くお礼申し上げます。

### ■益田は自転車に適っています

健康のために何か運動を始めようとしてジョギングを始め、膝や腰が痛くなつて途中で断念したことはありませんか？そんな時自転車は体に優しい運動の手段です。自転車通勤や僅か数十分のサイクリングを習慣にすることで体調も良くなり、ご飯も美味しくなり、

多くの方が健康診断の数値もグンとよくなります。しかし日本全国各地でも気軽に自転車に乗れる条件が揃っているわけではありません。都市部でも自転車レーンの整備などが積極的に進められ、少しずつ環境が改善されていますが、益田にはすでに良い条件が整っているように感じます。以前、自転車先進国であるオランダ大使館の方が益田市に訪れた際にも言っていました。益田市の市街地は平坦である事。その時は「そんなことか？」と思いましたが、自転車にとって一番辛いのは坂道ですから、まずは、買い物や通勤通学で、歩くと遠いので自転車で行こうという動機づけとしてはスムーズではないかと感じます。そして幹線道路を除く、通勤時間帯以外の一般道の交通量も少ないのでストレスが少ない事。サイクリングに出かけるにもすぐに郊外に出られて、季節を感じながら気持ち良く走れる道路が沢山あります。

現在、世の中は新型コロナウイルス感染拡大で大変な状況ですが、自転車に乗ることは流行語大賞にもなりました「3密」を回避し、ストレス発散と健康増進に役立つ行動として注目されています。当然ながら交通社会の一員としてルールやマナーを守ることは大前提ですが、天気の良い日には自転車で見たい自分と知らなかった益田を見出しに出かけませんか。

問 市五輪キャンプ誘致推進課

31・0342